

令和4年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

①いのちを大切にできる心の教育の充実といじめや不登校への細やかな対応

1 一人一人の児童生徒の尊重

学校は、一人一人の子どもを大切にしたい指導や対応ができていますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	18.0%	57.8%	21.7%	2.5%	
児童	63.3%	28.1%	6.6%	2.0%	
教職員	47.5%	42.6%	9.8%	0.0%	

2 道徳・心の教育の充実

学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。（礼儀、生命尊重、思いやりなど）

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	19.4%	57.6%	21.2%	1.7%	
児童	49.2%	39.3%	9.8%	1.6%	

3 授業力向上

先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	26.5%	55.1%	16.2%	2.3%	
児童	54.8%	33.9%	7.8%		
教職員	45.9%	47.5%	6.6%	0.0%	

一人一人の児童の尊重については、児童による肯定的な回答が9割以上を占めている。今後も一人一人の児童を大切にすることを根底に、児童の自己有用感などを高めながら、他者も大切にしようという行動につなげていくとともに、居場所ある学級・集団づくりを図っていきたい。また、道徳・心の教育の充実に向け、担任以外による「道徳の授業」を全学年で続けながら、深い教材研究と指導法の工夫を学び合うとともに、児童が「気づき、考え、議論する道徳」の授業づくりをさらに充実させていく。

児童による肯定的な回答が高い割合を示している。本校がこれまで取り組んできた生徒指導の三機能が定着し、「問い・対話・振り返り」を大切にしたい授業づくりや職員間での学び合いによる教材研究が成果の表れである。

②確かな学力の向上と社会の変化に対応した教育の推進

③教員が子どもと向き合うための体制の整備

4 タブレット端末活用

子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	27.2%	48.7%	20.7%	3.4%	
児童	56.5%	34.0%	7.3%	1.2%	
教職員	32.8%	50.8%	13.1%	1.3%	

5 学校の支援体制

学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	18.0%	57.3%	21.9%	2.8%	
児童	54.1%	31.1%	14.8%	0.0%	

6 共生社会を担う人材の育成

「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	15.5%	62.9%	19.0%	2.5%	
児童	52.1%	31.2%	10.6%	6.1%	
教職員	41.0%	45.9%	13.1%	0.0%	

「ICT活用」において児童による肯定的な回答が多いが、GIGAスクール構想で一人一台タブレット導入後はICT環境が整い、オンライン授業等での活用も充実してきている。今後もICTの研修・研究を進めながら有効活用していかなければならない。

特別支援教育の推進として、保護者との教育相談や学級懇談会等を通して、児童についての理解を高めたり、複数での支援体制について発信したりすることができた。また、部会による職員間の情報共有を行い、学級内でも児童同士が交流する機会を積極的に取り入れながら児童相互による他者理解を促進してきた。今後も、関係機関との情報共有を積極的に行いながら、保護者の理解と信頼を高めていきたい。

④学習に集中できる教育環境づくりと安全対策の推進

7 安全と事故防止

学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	21.7%	56.3%	19.5%	2.5%	
児童	69.8%	22.7%	7.0%	2.6%	
教職員	45.9%	44.3%	6.6%	1.3%	

8 施設・設備の安全管理

学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。

回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	15.1%	58.5%	19.2%	7.3%	
児童	49.5%	35.1%	11.3%	4.1%	
教職員	31.7%	61.7%	5.0%	1.7%	

9 家庭や地域との連携協力

学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。

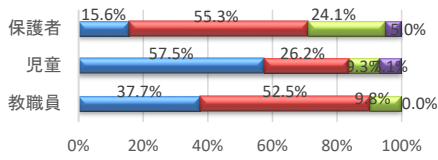
回答者	そう思う	どちらかといえば、そう思う	どちらかといえば、そう思わない	そう思わない	無回答
保護者	18.6%	50.9%	24.9%	5.6%	
児童	39.3%	55.7%	4.9%	0.0%	

児童の事故防止の意識は高い評価であったが、休み時間や下校中のケガ等が多く見られる。今後も職員や地域による校内巡回や交通指導を行うとともに、児童自身が危険を予測し、自ら回避するなどの「主体的に行動する態度」を育成する安全教育を目指していく。「施設・設備の安全管理」については、毎月の安全点検とともに教員が安全に関する意識を高く持ちながら、日常的な点検を行うことができています。老朽化に伴う修繕等については、教育委員会と共有しながら、早めに対処していきたい。「家庭や地域との連携協力」では、昨年度に比べ保護者の肯定的評価が低くなった。授業参観や学級懇談会など保護者が来校する機会が少なかったことも要因の一つであるが、学校だよりや学級通信等での周知が不十分であった。今後は、ホームページや安心メールの積極的活用を通して、家庭や地域への周知を行いながら連携を図っていきたい。総合的な学習などでは地域の方に講師をしていただくなどの人材活用ができたので、今後も幅広く積極的に活用していきたい。

⑤本校の教育

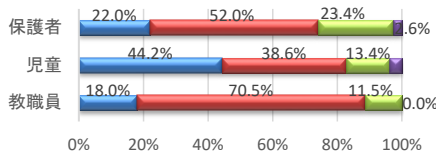
10 教育目標

学校は、教育方針や教育目標を子どもや保護者に分かりやすく示していると思いますか。



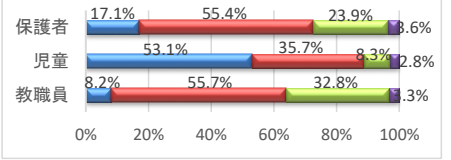
11 かしこく

子どもは、めあてを持ったり、友だちと話し合ったり、進んで発表したりして、意欲的に学習に取り組んでいますか。



12 なかよく

子どもは、あいさつや返事、やさしい言葉遣いをしたりして、人と心豊かに関わっていますか。

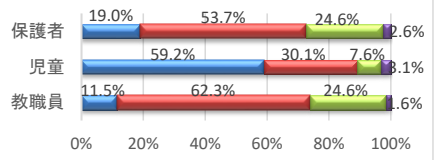


教育目標の提示については、昨年度に比べて肯定的な評価が減少した。学校だより等で教育目標を何度も示していたが、今後は、通信のレイアウト等を改善しながら視覚的な効果も図っていききたい。「かしこく」では、昨年度に比べて児童による肯定的な回答が増加した。今後もめあて学習を行いながら、進んで発表できる学級の支持的風土や意欲を喚起する発問の工夫など職員の研修を積み重ねていきたい。「なかよく」でも、児童の肯定的な回答が増加している。児童同士の交流や関わりが増えてきている状況が、児童の人間関係の構築に効果を及ぼしている。QUテストの結果から、「託東タイム」や「たくトーク」などの取り組みを継続していることでコミュニケーション能力は身につけてきている。

⑤本校の教育

13 たくましく

子どもは、食事に気をつけたり、進んで運動をしたりして、健康的な生活ができていますか。



「たくましく」では、児童の肯定的な回答が昨年度に比べて高い結果である。給食時を中心に、食に関する教育を定期的に行っていることが効果の一つとして現れている。今後も食事や健康面については家庭と連携していかなければならない。

来年度の具体的な取り組みについて

○賢（かしこく）＜進んで学び探求する子ども＞のために、生徒指導の三機能を生かした学級づくりを根底に、主体的・対話的で深い学びの視点を踏まえた授業改善を行う。本校の取り組みの中心である「託東タイム」やそれを授業に活かした「たくトーク」を授業に取り入れ、対話（アウトプット）を増やしていく。本市より貸与された一人一台のタブレットや電子黒板などのICT機器を積極的に活用しながら、児童が意欲的・主体的に学習に取り組めるよう、職員研修や研究授業などを通して教師の授業力を向上させていく。高学年では、今年度と同様、一部教科担任制を導入し、深い教材研究のもとでの質の高い授業を目指す。

○睦（なかよく）＜なかよく助け合い励まし合う子ども＞のために、安心感と自分の居場所のある学級・学校づくりを目指す。道徳の授業を中心に、子どもの心を揺さぶり、葛藤を生む「考え、議論する」活動を通して、道徳的実践力の育成を目指す。また自己肯定感や自己有用感などを高めるために、自他の良さを認めあう活動を多く取り入れていく。いじめや子どもの人権を侵害するような行為に対しては、「いじめや暴力は許さない」という共通認識のもと、被害者に寄り添いながら毅然とした対応をとる。

○剛（たくましく）＜たくましい心と健やかな体を持つ子ども＞のために、体力テストの結果を分析し課題を把握し、体育の授業を中心に、体力向上に向けた運動や活動を取り入れる。また、体育の授業では児童を中心とした授業の展開を行うとともに、業間や昼休み時には外に出て遊べるよう委員会活動等で計画的に取り組む。けがや事故防止のために、定期的な安全点検と段階的な安全教育の充実に努める。

○授業参観や学級懇談会、教育相談、各種行事等において、保護者や地域との交流を積極的に行いながら情報を共有する。学校行事や総合的な学習の時間などに積極的に地域に足を運ぶとともに、地域の人材を活用し、地域の課題を解決する取り組みを通して、「地域とともにある学校」を目指す。

学校関係者評価

- ・教育は人次第で変わる。
- ・学校に任せきりとなっているが、子どもたちは地域や家庭での指導が大切と思っています。地域の一員としてできる限りの協力をしたいと思っています。